

職域における検診の現状と課題

- ・ 職域におけるがん検診に関するマニュアルを周知、理解、活用することは、正しいがん検診の実施をすることにつながる。
- ・ 現在の職域で提供されているがん検診はマニュアルとの乖離が大きいことは明らかである。
- ・ 検診項目(検査法、対象年齢、受診間隔)や精度管理の方法が正しく実施されていないため、がん検診を提供する団体(健保/企業)ごとに異なっており、事業評価もできない状況。
- ・ 精度管理の実施者: 検診機関(検査施設)、保険者、事業者、検診代行業者等のすべての検診関係者
- ・ 現在、科学的根拠のない検診が実施されている。
- ・ マニュアルにおける工程の役割分担を示すことが必要。
- ・ 検査項目や検査実施方法について、がん検診についての知識がある職員がいない保険者は、検診代行業者の推奨する内容で実施している。
- ・ 検診実施後の評価をする仕組みがなく、やりっぱなしになっている
- ・ 産業医は、がん検診を実施する意思が希薄(産業医のマニュアル認知率は大変低い)

実施体制

本事業は、事業運営委員会を組織して実施する。委員会事務局は代表組合とする

- 健保組合: がん検診提供に際し、契約している委託業者もしくは検診機関と会議に出席をする。他事業会社の実情、委託業者、検診機関としてマニュアル運用について責任を負うべき項目を専門家に確認をする。
- 研究機関: マニュアルについての質問やマニュアル策定の経緯、今後について説明や指導をする。
- 健診委託機関: がん検診精度管理指標の算出に必要なデータ提供のあり方について検討を行う
- システム開発会社: がん検診精度管理システムを健康保険組合が活用する際の最大の障壁である検診機関の判定のばらつきを解消するためのシステム開発にあたり、アドバイスも含めて会議に参加する。

課題解決必要事項①

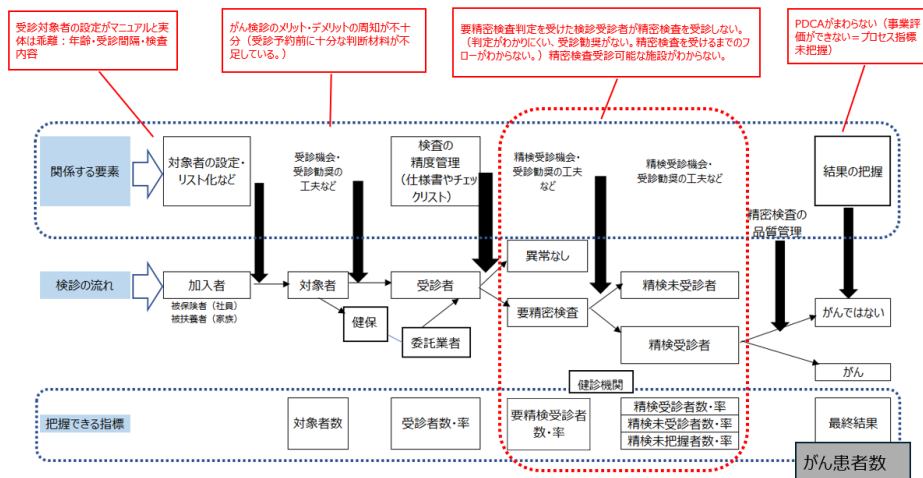
がん検診の主な工程 工程についての知識、実施、管理方法の提供が必要

(ツール開発含む)

工程項目例	専門家	保険者	企業	検診機関	検診代行業者
①がん検診の企画		○	○		
①検診実施主体と検診機関との委託契約		○	○	○	○
②検診対象者の抽出		○	○		
③対象者への受診勧奨		○	○		○
④検診機関での検査				○	
⑤検診結果の把握と要精検者(精密検査が必要な人)の特定		○		○	○
⑥要精検者への精検受診勧奨		○		○	○
⑦精検結果の把握		○		○	○
⑧検診データの記録・管理		○		○	○

課題解決必要事項②

マニュアルとの乖離 がん検診の標準的なフローが実施できていない



スケジュール

	令和7年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容	検診委託業者 ヒアリング結果 がん検診 標準的工程表の開発					
	事業運営委員会開催 事業運営委員会開催 事業運営委員会開催					
	10月	11月	12月	令和8年1月	2月	3月
事業実施内容	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催	事業運営委員会開催
	精検受診率算出の標準的プロセスの検討 コンソーシアム参加組合における標準的プロセスによる 各種がん検診					
	事業評価と報告書作成					

コンタクトセンター